小学校

平成7年度

教育研究員研究報告書

教育課題

東京都教育委員会

平成７年度

教育研究員名簿

分科会	No.	地区	学校	氏名	備考
第一分科会	1	新宿区	津久戸小	寺田尚代	
	2	品川区	源氏前小	遠藤康弘	
	3	世田谷区	若林小	伊藤正泰	
	4	杉並区	杉並第九小	富岡雅裕	
	5	板橋区	赤塚小	前田貞	代表世話人
	6	葛飾区	南奥戸小	小林秀樹	
	7	調布市	滝坂小	五十嵐恒雄	世話人
	8	東村山市	萩山小	浮須勇人	
	9	羽村市	富士見小	大河原恵子	
第二分科会	1	墨田区	隅田第二小	竹田行毅	
	2	目黒区	八雲小	内山仁	
	3	渋谷区	幡代小	大友道子	
	4	豊島区	平和小	藤田直幸	
	5	練馬区	大泉第六小	赤羽芳郎	
	6	江戸川区	小松川小	石崎敏恵	
	7	町田市	大戸小	木村宏	
	8	国分寺市	第六小	田久保靖宏	世話人
	9	多摩市	北豊ケ丘小	吉田富雄	
第三分科会	1	江東区	第一亀戸小	向田弘司	
	2	大田区	大森東小	稲垣敏朗	
	3	中野区	向台小	加藤雄一	
	4	北区	赤羽台西小	藤橋佐記子	
	5	足立区	亀田小	小暮利造	
	6	八王子市	由井第二小	卜部敦彦	
	7	日野市	程久保小	三木滋	
	8	狛江市	狛江第一小	豊田栄治	世話人

担当　教育庁指導部初等教育指導課指導主事　後藤　忠
〃　今　直樹
〃　矢崎良明
多摩教育事務所指導課指導主事　真如昌美

目　　次

新しい学力観に基づく指導法の研究

Ⅰ　共通研究主題設定の理由 …… 2

Ⅱ　研究の内容・方法 …… 3
1.　各分科会の研究主題について …… 3
2.　研究の進め方 …… 3

Ⅲ　一人一人のよさを認め合う学習過程の工夫（第一分科会）
1.　分科会研究主題設定の理由 …… 4
2.　研究のねらいと仮説 …… 4
3.　研究の内容 …… 6
4.　実践事例 …… 7
5.　研究のまとめと今後の課題 …… 10

Ⅳ　児童が共に学び合うための支援の工夫（第二分科会）
1.　分科会研究主題設定の理由 …… 11
2.　研究のねらいと仮説 …… 11
3.　研究の内容 …… 13
4.　実践事例 …… 14
5.　研究のまとめと今後の課題 …… 17

Ⅴ　一人一人のよさや可能性を引き出すための支援の工夫（第三分科会）
1.　分科会研究主題設定の理由 …… 18
2.　研究のねらいと仮説 …… 18
3.　研究の内容 …… 20
4.　実践事例 …… 20
5.　研究のまとめと今後の課題 …… 23

Ⅵ　研究のまとめと今後の課題 …… 24

Ⅰ　研究の概要

共通研究主題

新しい学力観に基づく指導法の研究

1. 研究の意義とねらい

(1) 研究の意義

これからの社会は，様々な情報の中から自分が必要とする情報を選択し，自ら意思決定していく生き方が重視される時代となる。

すでに医療の世界では，担当医から自分の病気についての情報を得て，その後の生き方を自ら決定していくシステムが始まっているように，自分のことを自らの責任において決定していく力は，これからの時代には必要不可欠のものとなっている。

学校教育においても，情報化，国際化，価値観の多様化の進む中で，児童にとって２１世紀をたくましく生きぬくために必要とされる学力がどのようなものであるかを明らかにし，その考えに立った指導を進めていくことが大切である。

そのためには，知識や技能に偏りかけていたこれまでの学力観を見直し，児童の学ぶ意欲や，思考力，判断力，表現力などを学力の基本としてとらえる中で，児童一人一人がよさや可能性を十分発揮できるように学習を支援していくことが必要である。

(2) 研究のねらい

本年度は，平成４年度からの教育課題研究員の研究の成果や課題を基にしながら「学習過程」と「支援」とに視点をあて，以下の観点から指導方法や評価方法の工夫・改善を進めることとした。

また，児童一人一人の思いや願いを大切にするとともに，認め合い，学び合う場としての学習集団の人間関係を豊かにしていくことについて，人間尊重の精神を培う視点を重視した。

具体的には，次の観点から指導方法の改善を図った。

- 指導目標設定の工夫
- 学習過程の工夫
- 学習材の開発
- 児童の学習への支援の工夫
- 児童が学習を振り返る評価の工夫

以上のような改善の視点に立ち，心豊かでたくましい児童を育成することが小学校教育における重要な課題と考え，本研究主題を設定した。

Ⅱ　研究の内容・方法

1.　各分科会の研究主題について

本研究主題での研究は今年で4年目である。これまでの研究の成果として，学習材・学習過程・個に応じた支援・学習を進めるときの友達とのかかわりについて工夫することによって，児童が学習に対して達成感や満足感をもち，意欲的になることが明らかになってきた。本年度は，各分科会の研究主題を次のように設定し，さらに研究を深めることにした。

第一分科会　・一人一人のよさを認め合う学習過程の工夫
第二分科会　・児童が共に学び合うための支援の工夫
第三分科会　・一人一人のよさや可能性を引き出すための支援の工夫

2.　研究の進め方

共通研究主題を具現化するために，各分科会では以下の仮説を立て，研究を進めた。

(1)　第一分科会

学習過程の構成を以下の3点から工夫することで，一人一人のよさが生かされ，互いに認め合いながら学習を進められる児童を育成することができると考える。

・児童の思いや願いを生かす学習活動の展開の工夫。
・自分で判断したり，表現したりする場や機会の工夫。
・互いに見合ったり，励まし合ったりする場や学習形態の工夫。

(2)　第二分科会

共感的態度で児童に接しながら，次の2点を学習活動の中で繰り返し行っていくことにより，児童はともに学び合うようになり，互いのよさを伸ばし可能性を高めていけると考える。

・児童相互がかかわり合う場を設定する。
・その場に応じた教師の適切な支援を繰り返し行う。

(3)　第三分科会

学習指導の工夫・改善と合わせて児童の実態に応じた支援を以下の3点から行うことで，児童一人一人のよさが表れ，主体的に学習に取り組み，個性豊かに，たくましく生きていける児童が育つものと考える。

・児童が興味関心をもち，主体的な学習を喚起する学習材の選択
・互いに認め合い，心の通う学習の場の工夫。
・児童が自ら学習を振り返り，成就感の得られる評価活動の工夫。

なお，研究を進めるに当たっては，特に以下の事項に留意した。

(1)　授業研究を通して，具体的な指導方法の改善を検討する。
(2)　共通研究主題のもとに，各分科会の研究成果を生かして継続的に研究を進める。
(3)　先行研究の成果を踏まえて，研究を進める。

Ⅲ　第一分科会

一人一人のよさを認め合う学習過程の工夫

1.　分科会研究主題の設定理由

本分科会では，「新しい学力観」に基づく教育を，児童一人一人のよさや可能性を発見し，それを生かすこと（個性尊重），自ら学び続ける力や創造的な生き方にかかわる力（生きて働く力）を育てていくこととととらえた。さらにそれらを日常の学習活動の中でどのように具現化していくかが大きな課題であると考えた。

そのためには，まずはじめに指導すべき内容ありきではなく，まず子供ありきという考え方に立ち，児童一人一人の考えや，様々なよさや可能性を生かす多様な学習活動を充実していくことが必要である。このような学習活動を展開していくことで，児童一人一人のよさや可能性が大いに発揮され，学習の楽しさや充実感が味わえる。同時に，豊かな自己実現に生きて働く資質や能力が身に付いていくものと考える。また，児童一人一人のよさや可能性は，友達とのかかわりを通して高められ，豊かになっていくものと考える。

そこで，本分科会では，上記の分科会主題を設定し，新しい学力観に基づいて指導法の工夫・改善を試みた。

2.　研究のねらいと仮説

本分科会では，目指す児童像を「自分の思いや願いをもって学習に取り組める子」「自分のよさに気付き，学ぶ意欲をもち続けながら学習を進めていける子」と設定した。

このような児童を育成するためには，

(1)　これまでの教師主導型の学習活動の在り方から児童主体の学習活動へと質的な転換を図ること

(2)　児童一人一人のよさや可能性を生かしながら，児童相互の人間関係を豊かなものにしていく学習活動を展開していくこと

が必要になると考え，次のような仮説を設定した。

研　究　仮　説

学習過程の構成を以下の３点から工夫することで，一人一人のよさが生かされ，互いに認め合いながら学習を進められる児童を育成することができる。

○児童の思いや願いを生かす学習活動の展開を工夫する。

○自分で判断したり表現したりする場や機会を工夫する。

○互いに見合ったり，励まし合ったりする場や学習形態を工夫する。

研究構想図

共通研究主題

新しい学力観に基づく指導法の研究

社会の要請
- 心豊かな人間の育成
- 自己教育力の育成
- 基礎、基本の重視と個性教育の推進
- 自国の文化と伝統の尊重と国際理解

都の教育課題
- 人権尊重教育の推進
- 社会性を育む教育の推進
- 国際理解教育の推進

指導上の課題
- 一人一人の児童理解を深める
- 個を生かす学習過程を工夫する
- よさを認め合う場の工夫をする
- 知識、理解中心の指導と評価に陥らないようにする

共通研究主題の分析

新しい学力観に立つ教育においては児童一人一人がよさや可能性を生かし、自分の力によって豊かに生きてゆくために必要な資質や能力を身に付けることが求められている。

そのためには、児童一人一人のよさを生かすことを学習の根底にすえ、弾力的でしかも児童が互いのよさを認め合える学習過程を工夫していくことが大切である。

児童の実態
- 与えられた課題に素直に取り組む
- 自分を認めてもらいたいという気持ちが強い
- 生活経験が少ない
- 結論を求め、過程にはあまり興味がない
- 人とのかかわり合いが不十分

↓

第一分科会研究主題

一人一人のよさを認め合う学習過程の工夫

↓

研究の仮説

学習過程の構成を以下の３点から工夫することで、一人一人のよさが生かされ、互いに認め合いながら学習が進められる児童を育成することができる。
- 児童の思いや願いを生かす学習活動の展開を工夫する。
- 自分で考え、判断したり表現したりする場や機会を工夫する。
- 互いに見合ったり励まし合ったりする場や学習形態を工夫する。

↓

学習過程

		つかむ 課題把握	調べる・試す・表現する 課題追究	まとめる 課題達成
児童の活動		○学習のめあてをもつ ・こんなことをしたい、できるようになりたいという思いをもつ ○学習の計画を立てる ・課題を解決するために既習事項を生かしながら見通しをもつ ・自分なりの解決の方法を考え計画を立てる	○自分なりの方法で課題に取り組む ・資料の選択、活用 ・実験、観察、器具の操作など必要な知識、技能を身に付ける ○友達の考えを参考にしながら、自分の方法や考えを変更したり修正したりする ・自分の考えを発表する ・友達や教師との情報交換	○学習したことをまとめる ○自分の学習を振り返り成果を確かめる ○学習成果を発表する ・友達のよさに気付き認め合う ○新たな課題をもつ ・もっとしたいという意欲をもつ
学習過程構成の工夫	・児童の思いや願いを生かす学習活動の展開を工夫する	○児童の実態を把握し、興味関心がもてるような課題を工夫する ○授業の流れや時間配分等の弾力化 ○学習活動の複数の展開を考える ○複数の学習材を用意する ○学習の見通しがもてるような学習カードや学習資料を工夫し提示する	○ＴＴによる指導 ○資料の提示、方向の修正、示唆ヒントカードの活用等、個に応じた対応をする ○自分なりの方法で学習が進められるような支援をする ○一人一人の考えに応じた学習材を提供する	○個々が自分の学習の過程を振り返り、自己評価する場の設定 ○個々の学習の成果を明確にし、新たな課題がもてるようアドバイスする
	・自分で考え判断したり表現したりする場や機会を工夫する	○児童の実態を把握し、個々の児童が自分なりの課題を見付けられるような、学習材を選択する	○学習環境の工夫 ○学習活動の工夫と時間の確保	○学習の反省、自己評価の工夫 ○学習の成果をまとめ、表現する場の設定
	・互いに見合ったり励まし合ったりする場や学習形態を工夫する	○話し合いの場を設定する ○課題の共通化や関連について示唆する	○学習形態の工夫 ○情報交換、中間発表の場の設定 ○個別、グループ別でのディスカッションを行う	○よさを認め合い、相互評価をする場の設定 ○学習の成果をまとめ、表現する場の設定
評価		○課題への関心・意欲、学習の計画等について評価する	○個々の考え、取り組む意欲、友達との協力等について肯定的に評価する	○個々の学習の過程や成果を肯定的に評価する

↓

育てたい児童像
- 一人一人が、自分の思いや願いをもって学習に取り組める児童。
- 自分のよさに気付き、学ぶ意欲をもち続けながら学習を進めることができる児童。

3. 研究の内容

(1) 児童の思いや願いを生かす学習活動

一人一人の児童のよさや，個々の思いや願いを生かした学習活動を構想し展開するには，児童の実態・学習材・学習形態・思考の流れを十分検討し，豊かな活動が展開されるよう次のような授業を考えた。

- 児童一人一人が自分の学習の目標をもち，目標に向かって進めることのできる授業。
- 学習の順序や方法・場所，課題や学習材などを，児童が選択することのできる授業。
- 児童の疑問や問題意識から出発し，児童自らが探究していく授業。
- 児童の考えを受け入れて，柔軟な学習展開が図れる授業。

(2) 指導目標の設定

児童の思いや願いを生かす学習活動の展開を考えるには，指導目標を設定する必要がある。指導目標の設定に当たっては次の点を考慮するようにした。

- 児童一人一人が自らのよさや思いを発揮し，主体的に判断し行動できる資質や能力を獲得する学習活動を，教師がどのように支援するかという観点に立つ。
- 児童の実態を把握した上で，単元や題材のねらいを「関心・意欲・態度」「思考・判断」「技能・表現」「知識・理解」の観点の中に明確に位置付ける。
- 児童にどう教えるかでなく，児童がどう学んで（身に付けて）いくかの視点で設定する。

(3) 自分で考え判断したり表現したりする場

児童が自分なりの考えをもち，試したり，気付いたりする活動を通して，一人一人の考えや様々なよさを発揮させることができる。また，自分なりにまとめたり表現したりする活動において，学習が確かなものになり楽しさや充実感を味わうことができる。これらの考えに立ち，学習過程の構成において次のような工夫を行うことにした。

- 体験活動，調査活動，実験活動，表現活動などを学習過程に取り入れ，十分な時間の確保をする。
- 情報交換の場の設定，学習資料の整備，教育機器の活用，掲示物の工夫など，学習環境を整える。

(4) 互いに見合ったり励まし合ったりする場

児童に共通の問題意識や共通する心情，共通の知識がなければ互いのよさを認め合うことは難しい。したがって，場の設定にあたっては集団の中にどれだけ共通なものがあるかということが重要なポイントとなる。その上で次のような工夫を行うことにした。

- 一人一人の課題やめあてが全体にわかるようにする。
- 互いに活動が見合えるような学習環境や場を設定する。
- 互いに競い合ったり，協力し合ったりする学習形態を工夫する。
- 見合ったり，話し合ったり，発表したりする場を設ける。

4. 実践事例　（第６学年　社会）

(1) 単元名　　「貴族の世の中」

(2) 単元のねらい

都での藤原氏のくらしぶりと農村で農耕技術を工夫しながらくらす人々を比較しながら，貴族の世の中の特徴をとらえることができる。

(3) 児童の実態

男女の仲がよく，互いに助け合ってグループ活動をする。授業や学級活動の中で自他のよいところを見つけ，認め合うことを大切に指導してきた。調べた事柄をレジュメにまとめ発表し合う学習は以前にも行ったが，個々の児童が主体的に疑問を見付け，質疑応答していくのは難しかった。友達の発表の内容を的確につかめる児童とそうでない児童の個人差が大きいが，どの児童も人物調べの学習に対する意欲は高く，前向きに学習に参加している。

事前に実施した調査では，「人物のしたことを調べるのが好き・楽しい」「調べて発表するのが楽しい・好き」「発表や質問するやり方が好き」「学習する方法が楽しい」など人物調べの学習に対して楽しさを感じている児童が多かった。また，「人物のしたことが分かったり，想像したりするのが楽しい」など歴史に興味をもっている児童も多い。

(4) 単元について

本単元では，藤原氏のくらしぶりから，貴族の生活や都での政治の様子など，貴族の世の中の特徴をつかむとともに，日本風の文化が起こったことや，武士が次第に力をもつようになった過程を学習する。

児童にとってこのころの文化の特色をとらえることは容易ではないが，住居や服装，貴族の日常などの資料を活用し，またエピソードなども交え，個々の児童が自分なりに人物像や生活の様子がイメージできるようにする。

(5) 指導目標

関心 意欲 態度	友達の発表を聞き，藤原氏について関心をもとうとする。 貴族のくらしに関心をもち，進んで調べようとする。 平安時代の庶民のくらしや文化について進んで調べようとする。
思考 判断	貴族のくらしぶりと庶民のくらしぶりを比較して考えられるようにする。 分からないことについて質疑応答を行い，考えを深めることができるようにする。
技能 表現	図書や資料を使って調べることができるようにする。 調べたことをわかりやすくまとめたり，発表したりできるようにする。
知識 理解	貴族のくらしぶりや文化について特徴をとらえることができるようにする。 荘園の存在に気付き，農民や庶民の工夫や努力についてとらえることができるようにする。

(6) 研究主題との関連

一人一人の児童が，自ら歴史的事象について理解を深め，自分の見方・考え方をもち，表現することがその子のよさを発揮するということであると考える。

今回，児童が人物やくらしの様子について調べる過程で，友達との話し合いや共同作業を行い，自分の考えを見直したり修正したり自信をもったりすることがお互いによさを認め合うことにつながると考えた。

その上で次のように学習過程の構成を工夫した。

① 児童の思いや願いを生かす学習活動の展開を工夫する。

ア 単元の導入に藤原道長について調べた児童の発表会を行うことで，自分でも詳しく調べてみたいという意欲を高め，主体的に課題に取り組めるようにした。また，学習活動の展開の中で，できるだけ児童の発表した内容を生かすようにした。

イ ＴＴ（ティームティーチング）による指導を行うことで，個々の児童の特性や能力に応じた働きかけを行うと同時に，複数の課題を設定し，課題別に一人一人の児童への支援を行うことができるようにした。

② 自分で考え判断したり表現したりする場や機会を工夫する。

ア 図書資料やＶＴＲ・コンピュータソフト等を用意し，調べる活動を重視した。

イ 同じ課題を調べている児童と教師でのディスカッションの場を設定し，自分の考えや見方を修正したり広げたりすることができるようにした。

③ 互いに見合ったり励まし合ったりする場や学習形態を工夫する。

ア 単元の初めに，これから学習する時代に登場する人物について発表するようにした。発表では方法や資料提示の仕方を工夫すると同時に，質疑応答を行うようにした。

学習過程の工夫

		つかむ 課題把握	調べる・試す・表現する 課題追求	まとめる 課題達成
児童の活動		○学習のめあてをもつ ・友達の発表を聞き、貴族のくらしや道長の行ったことについて疑問をもつ ○学習の計画を立てる ・貴族のくらしぶりや、農民や庶民の努力や工夫について調べる計画を立てる	○自分なりの方法で課題を解決する ・中心に調べること（衣、食、住、文化、文学、文字、藤原氏の繁栄農業、商業など）を決め、図書や資料、コンピュータやＶＴＲなどを使って調べる	○学習したことをまとめる ○学習成果を発表する ・貴族のくらしぶりと庶民のくらしを比較しながら学習新聞にまとめる
学習過程構成の工夫	児童の思いや願いを生かす学習活動の展開を工夫する	○学習活動の複数の展開を考える ○複数の学習材を用意する ・調べることを多様にし、自由に選択できるようにする	○ＴＴによる指導 ・発表では、発表する児童側と発表を聞く児童側に分かれ支援する 調べる段階では、調べる事柄によって分担する	○個々が自分の学習の過程を振り返り、自己評価する場の設定 ・学習カードに学習を振り返っての感想を書くようにする
	自分で考え判断したり表現したりする場や機会を工夫する	○児童の実態を把握し、興味関心がもてるような課題を工夫する ・導入段階の発表のしかたを工夫する	○学習環境の工夫 ・図書室、コンピュータ室等を活用し、図書や資料、ＶＴＲやコンピュータソフト等を用意する	○学習の成果をまとめ、表現する場の設定 ・学習新聞に調べたことをまとめる
	互いに見合ったり励まし合ったりする場や学習形態を工夫する	○課題の共通化や関連について示唆する ・発表者の作成したレジュメを事前に渡し、疑問や質問を考えておくように指示する ・出された質問とこれから調べる課題との関連を明確にする	○情報交換、中間発表の場の設定 ・お願いカードを使い情報交換をしやすくする ○学習形態の工夫 ・調べる事柄別にグループを作り、分担して調べるよう助言する	○よさを認め合い、相互評価をする場の設定 ・新聞のよいところをメッセージカードに記入し互いに交換し合うようにする
評価		○貴族のくらしぶりに関心をもち、調べる計画が立てられたか評価する	○資料の活用や友達との情報交換を活発に行っている児童をほめる	○学習新聞での目の付けどころやよい表現等について評価する

(7)　学習過程

段階	学習活動・学習内容	認め合いの場面	教師の支援
つかむ (2)	○藤原道長について発表する ・年譜，業績，エピソード，時代への影響など ○分からないことや疑問について質疑応答を行う ○藤原氏が栄えた時代について概観する	○調べた事柄に対する質疑応答 ○発表の内容や発表方法のよいところを見付けメッセージカードに記入し発表者に渡す	T1　発表を聞いている児童の個別指導 ・レジュメによりあらかじめ疑問点が出るようにする T2　発表者の補助 ・児童だけでは答えられない質問に答える
調べる (4)	○平等院の写真や寝殿造の絵などを見て，貴族のくらしの様子や，藤原氏が栄えている様子について調べる ① 貴族はどのようなくらしをしていたのか調べよう 寝殿造 / 衣・食・仕事 / 年中行事 / 文学・文字 中間発表 ② 藤原氏はどのようにして力をのばしていったのか調べよう 政治的な面から 家系 / 役職 / 争い / その他 経済的な面から ・荘園の発達 ・商業の発達 ○貴族のはなやかなくらしを支えた農民や庶民の努力や工夫について調べる 庶民の生活はどんなだったのか 農業技術の発達や工夫 / 商業の発達	○グループで協力や分担をして調べる ○お願いカードで教え合いや情報交換をしやすくする ○調べたことの中間報告をする ○調べたことや考えを発表し話し合う ○お願いカードで教え合いや情報交換をしやすくする	T1　グループ指導 ・寝殿造，衣，食，仕事について調べるグループを主に支援する T2　グループ指導 ・年中行事，文学，文字について調べるグループを主に支援する T1　グループ指導 T2　グループ指導 ・藤原氏が朝廷で高い地位につき政治を独占していたことに気付くようにする ・藤原氏の系図，朝廷の役職等についての資料を用意しておく ・荘園の存在に気付くようにする ・資料集等の資料から荘園や市の様子に気付くようにする T1　個別指導 ・収穫を増やす工夫や農業の様子などから考えるよう助言する T2　個別指導 ・祭りや市の様子などから考えるよう助言する
まとめる (1)	○貴族のくらしぶりと庶民のくらしを比較しながら，調べたことをまとめる。 ・学習新聞にまとめる	○学習新聞の掲示 ○新聞のよいところをメッセージカードに記入しお互いに交換し合う	T1　個別指導 T2　個別指導 ・個々の児童の工夫を取り上げほめる

(8) 考察

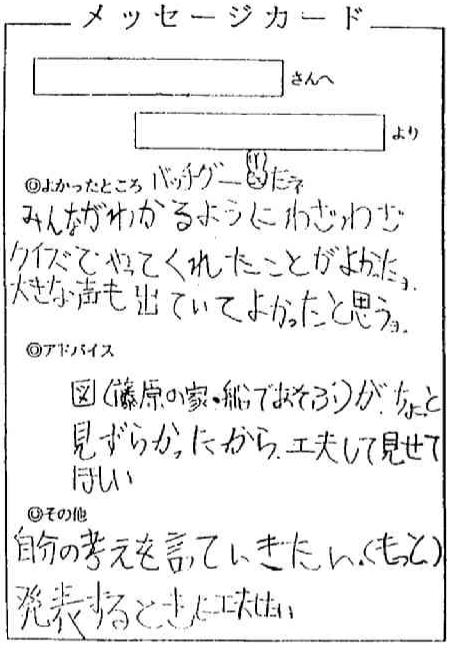
・発表をする，発表を聞くという児童主体の授業を行うことで，歴史の学習に対する意欲がでてきた。また，回を重ねるにつれて，発表の仕方を工夫したり内容を考えたりすることが進んで行えるようになってきた。

・児童同士の質疑応答はたいへん活発で，質問に対して発表者が堂々と答えることができた。

・児童の質問が多岐にわたり，一問一答に終わってしまった。重要な質問については，教師（Ｔ２）の方で取り上げ，全体の児童に問いかけ直すことも必要だった。

・メッセージカードに書かれた内容は，発表児童の工夫や努力に対して肯定的に評価しているものが多かった。

・児童の中には，発表した内容についてさらに詳しく知りたい，教えてほしいという意欲をもった者が多かった。


メッセージカード

さんへ

より

◎よかったところ バッチグー!!

みんながわかるようにわざわざクイズでやってくれたことがよかったョ。大きな声も出ていてよかったと思うョ。

◎アドバイス

図（藤原の家・船でおそう）がちょっと見ずらかったから工夫して見せて欲しい

◎その他

自分の考えを言っていきたい。（もっと）発表するときに工夫したい

5. 研究のまとめと今後の課題

本分科会では，児童一人一人のよさを認め合う学習過程の工夫について研究を進めてきた。そして，次のようなことが明らかになった。

(1) 研究の成果

① 構想図に示したように，学習の課題把握・課題追究・課題達成の過程ごとに，仮説１～仮説３の内容を表にし，児童の活動を具体的な手だてとして明確にすることによって，児童の思いや願いを生かした学習活動の展開を考えることができた。

② 指導目標を児童の実態を把握してから，「関心・意欲・態度」「思考・判断」「技能・表現」「知識・理解」の４つの観点に位置付けるように設定することで，児童の側に立った学習が展開され，児童一人一人のよさや可能性を高めることができた。

③ 「自分で考え，判断したり表現したりする場」や「互いに見合ったり励まし合ったりする場」を学習過程に位置付けることによって，学習が確かなものになり，楽しさや充実感を味わうことができた。

④ 課題解決学習では，児童が調べた内容の発表を学習の導入に位置付けることで，学習意欲が高められ，児童が自分たちで授業を進めていく学習を展開することができた。

(2) 今後の課題

① 児童一人一人の思いや願いを生かした学習材の開発や教師の支援，弾力的な学習過程をさらに追究する。

② 児童がより意欲的に学習を進めることができる自己評価活動や相互評価活動の研究を深める。

③ 児童が互いのよさに気付き，認め合ったり，励まし合ったりできるよりよい支援の在り方を工夫する。

Ⅳ　第二分科会

児童が共に学び合うための支援の工夫

1.　分科会研究主題設定の理由

これからの時代には，自ら進んで学び続ける意欲や自分なりに問題を解決していくことのできる力を育てることが重要になってくる。

そのためには，児童の主体的な活動を大切にしていかなくてはならない。そして，その基盤になくてはならぬものは，教師による共感的な理解や児童相互の認め合う雰囲気である。なぜならば，一人一人のよさが認められ，温かく支援されることによって，児童は，つまずきながらも安定した心で学習に取り組むことができるからである。

本来，児童一人一人は，よさや可能性を限りなく秘めた存在である。そして，児童のよさや可能性は教師や他の児童のよさとかかわり合いながら，共に学び合う中で豊かに育っていくものである。しかし，児童の実態をみると，他人と豊かな人間関係を結んだり集団の中で様々な人とかかわり合いながら自己を生かしたりする能力や資質が，必ずしも十分身についてはいないという状況もある。

そこで，本分科会では特に児童相互のかかわり合いに視点をあて，上記の分科会主題を設定し，新しい学力観に基づく指導法の工夫を試みた。

2.　研究のねらいと仮説

児童が自分で課題をもち主体的に解決する学習活動において，友達の考えや意見に耳を傾け互いのよさを認め合うことにより，豊かな人間関係を築き，互いのよさを伸ばし可能性を高めていくことができると考えた。そして，次の仮説を立て授業を通して検証した。

研　究　仮　説

児童相互がかかわり合う場を設定し，その場に応じた教師の適切な支援を繰り返し行っていくことにより，児童が共に学び合えるようになる。

研究構想図

社会の要請

○心の教育の充実
○自己教育力の育成
○基礎基本の重視と個性化教育の推進
○文化と伝統の尊重と国際理解の推進

共通研究主題

新しい学力観に基づく指導方の研究

都の教育課題

○人権尊重の教育の推進
○社会性を育む教育の推進
○国際理解教育の推進

共通研究主題の分析

新しい学力観に基づく指導法では，児童の内発的学習意欲を喚起し，自ら学ぶ意欲思考力，判断力，表現力などの能力の育成を重視している。その中でも，とりわけ創造の基礎を培うための新たな発想を生み出すもとになる理論的な思考力，直観力を重視している

その基盤である人間関係において互いのよさに共感できる関係ができ，主体的に学習活動が展開される教師の支援の在り方が重要になってくる

指導上の課題

○個を生かす指導方や支援を工夫する
○一人一人の児童を多面的，共感的に理解する
○人とのかかわりを通して，よさを認め生かす場を工夫する
○知識理解に偏った評価にならないようにする

児童の傾向

・好奇心が旺盛
・情報量が多く，知識は豊富
・体験学習を好む
・判断力，行動力が乏しい
・表現力の不足
・人とのかかわりが不十分
・学習意欲の不足

第二分科会研究主題

児童が共に学び合うための支援の工夫

研究の仮説

児童が自分で課題をもち主体的に解決する学習過程において，友達の考えや意見に耳を傾け互いのよさを認め合うこと，すなわち，ともに学び合うことにより互いのよさを伸ばし可能性を高めていくことができると考えた

そのためには，児童相互がかかわり合う場を設定し，その場に応じた教師の適切な支援を繰り返し行っていくことにより，児童が共に学び合えるようになる

学習過程

	つかむ	追究する	まとめる
児童の活動と教師の支援	自分のよさに気付き，課題を明確にもつ	互いのよさを認め合いながら課題を解決する	自分のよさを高め，新たな課題をもつ
	○期待，願い，考えをもつ ○学習課題をもつ ・学習内容の十分な理解 ・自分の考えをカードに書く ・一人一人の意見に最後まで耳を傾ける ・時間を確保する ・肯定的評価，助言的指示 ・資料の提示	○学習の見通しをもち，計画を立てる ・時間の確保 ・カードの工夫 ・肯定的評価，助言的指示 ○友達や自分の工夫したところ，よい点を出し合いながら学習を進め，自分なりの方法で解決する。 ・学習形態の工夫 ・多様な思考に広がる学習材の提供 ・資料の活用 ・時間の確保	○学習の成果を発表する ・場の設定をする ・発表方法を提示する ○友達の評価を参考にし，自分を振り返り自分自身の変容を知る ・できた喜びを共に分かち合う ○友達の成果を知る ・一覧表にする ・カードを提示する ○新たな課題を見つける
	○自分と友達の意見の共通点や違いに気付く → ・個人の活動の場を多くする ・発表の場を設定 ・カードの掲示 ○学習課題の確認をする ・発表の場を設定 ・カードの掲示		
	☆個に応じた助言 →		
	☆自己評価，相互評価をする →		

育てたい児童像

互いのよさを共感し合い，高め合っていける児童

3. 研究の内容

次の3点を学習活動の中に設定し，繰り返し行っていくことにより，児童は友達と協力して学習を進めることの楽しさ，成就感を味わいながら互いのよさを高め合っていくことができると考えた。

① 共に学び合う場（活動する場）を設定する。（主な場として6つ想定した。）

② 場に応じて，子供同士がお互いにかかわり合いをもてる手だてを講ずる。

③ 個や集団に応じた教師の働きかけをする。

<table>
<tr><th colspan="2">共に学び合う場</th></tr>
<tr><th></th><th>話し合う　教え合う　助け合う　競い合う　認め合う　励まし合う</th></tr>
<tr><td>具体的な手だて</td><td>・ルール作り
・個人の目標を知らせる
・伸びを知らせる
・個の変容がわかる一覧表
・意見交換
・練習タイムの設定
・教え合いタイムの設定
・応援する場の設定
・声かけによる励まし
・学習カードの利用
・学習形態の工夫（等質・異質・課題別など）
・学習環境
・相談コーナー
・賞賛の拍手
・手紙
・作品発表
・鑑賞
・模倣
など
※1単位時間の中で全ての場を設定するのではない。また，教科の特性によっては設定がむずかしい場もある。</td></tr>
<tr><td>教師の働きかけ</td><td>・素朴な疑問を大切にする（疑問をみんなで話し合う場を作るなど）
・間違いや失敗，勘違いを肯定的な評価で認める
・他との違いを認める
・あらゆる発言を価値あるものとして受け止める
・成就感を何回も何回も繰り返し味わわせる
・わかる授業，楽しい授業を心がける
・強制や指示，子どもの肩代わりを控える
・コーディネーター役にまわる
・児童相互のかかわり合う場を数多く作る
・環境を整える
・学級の楽しい雰囲気づくり
など</td></tr>
</table>

4. 実践事例　（第３学年　学級活動）

(1) 議題名　「みんなで楽しめるお楽しみ会をしよう」

(2) 議題選定までの経過

６／27　帰りの会で話し合いたいことを全体に呼びかけ，議題を募集した。
（日常的に議題は受け付けているが，１学期も残り少なくなり，計画的に時間の使い方を考えなければならなくなったので呼びかけた。）

６／２　議題箱に集まった議題を，学活係で学級会にかけるもの，担任に任せるもの，個人に返すもの，代表委員会にかけるものなどに振り分け，全体に知らせ，学級会で取り上げる議題を決定した。学活係：学級会活動のために，議題集め，整理などを常時活動として行う係。司会班が輪番制のため設けた。

６／28　学活係，担任で７月の学級会活動計画を作った。

７／３　学活係，司会班，担任（以上で計画委員会を編成する）で議題を選定した。

(3) 学級会を開くまでの流れ（事前の支援）

> 教師は学活係，計画委員会，司会班の話合いには必ず参加し，細かな点まで考えるように，必要に応じて指導・助言をする。

７／３（月）午前中　：計画委員会を開き，緊急の議題がないか議題箱などを確かめ，議題を選ぶ。
帰りの会：計画委員会で選んだ理由などを紹介し，全員で話し合って議題を決める。

７／４（火）午前中　：計画委員会で話合いの柱立てを決め，学級活動ノートを作る。司会班は，係分担を決める。

７／５（水）帰りの会：司会班が学級活動ノートを配り，柱立てなどについて説明する。
家で　：一人一人が学級活動ノートに，自分の考え，参加の仕方の目標を記入する。

７／６（木）朝の会　：司会班が学級活動ノートを集める。
司会班は学級活動ノートに目を通す。学級会のシュミレーションをしながら，みんなの願いを生かすにはどうしたらよいか，話合いを順調に進めるためにはどうしたらよいかなど考え，学級会の進め方を具体化する。
司会，副司会：司会カードを利用し，書き直し，書き加えなどをしながら，話合いを効率化するための司会の仕方を考える。
黒板記録：分かりやすい書き方，手早く記録するための方法などを考える。
教師　：学級活動ノートに目を通し，個人の目標について励ましの一言などを書き加える。

７／７（金）朝の会　：学級活動ノートを一人一人に返す。
５校時　：学級会を開く。

(4) テーマと関連する指導の工夫（手だて・支援）

① 児童が共に学び合うための支援

A 話し合い活動への支援

○ 一人一人が自分の考えをもって臨むために

ア．事前に議題を知らせる。

イ．学級活動ノートに自分の考えを書く。

ウ．話し合いに臨む個人の目当ても考えさせ，ノートに記入する。

○ 一人一人が自分の考えを出し合えるように

ア．前もって学級活動ノートを回収し，司会班が目を通し，考えを出さない児童に発言を促すようにする。

イ．班内でノートを見合ったり，話し合ったりして，発言できない児童の代わりに他の班員が発言できるようにする。

ウ．個人の意見が形に残るように，紙に書いて黒板に掲示する。

○ 全体に

ア．話し合いのルールを守らせる。

イ．多数決の方法をなるべく採らせず，話し合いで決める。

B 評価

○ 話し合いを振り返り，自分や友達のよかったところを発表する場を作る。

○ 児童のよかったところを担任が評価する。

ア．相互の認め合い，励まし合い，高め合いについて

イ．以前と比べての変化

ウ．集団への寄与

エ．これからの課題　　など

C 司会班への工夫

○ どの児童にも役割が当たるようにする。

司会・副司会（全体の反省を言う）・黒板記録・ノート記録

○ 個の特性を生かして・個の変容をねらってなど目的をはっきり考えさせて役割分担をする。

○ 話し合いの柱をはっきりする。・予想を立てる。・司会がメモを作る。・話し合いの進め方についてのヒントを与えるなどの支援をし事前準備をしっかりする。

（学級会を開くまでの流れ）

D 座席

○ 話し合いが行き詰まってしまった場合，ご近所会議・グループ会議が開けるように座席を配慮する。

E 環境

○ 児童からの議題は，コーナーに掲示する。

○ 学級会を開くまでの流れを掲示し，一週間の仕事を分かりやすくする。

○ 学級活動計画（夏休み前までの）を掲示し，活動の見通しをもつ。

⑸ 学習過程　　◎児童が共に学び合うための支援の工夫

	活動の内容	予想される児童の活動	教師の支援	評価
事前	・学活係が議題の整理分類をする。 ・議題を決定する。 ・計画委員会で、話合いの計画をする。柱を立て、学級活動ノートを作成する。 ・柱に沿って、自分の考えをまとめる。 ・学級活動ノートを集め、司会班が打ち合わせをする。	・提案者の願いを考える。 ・提案者の願い、必要度を考え、選定する。 ◎自分の考え、参加の仕方についての目標を記入する。 ◎ノートに目を通し、どんな考えが出てくるか知り、話合いの見通しをもつ。 ・係分担を決める。	・提案理由を理解し、考えるよう援助する。 ・計画委員会（学活係、司会班、担任）の話合い計画が明確になるようにする。 学級活動ノートを印刷する。 ・提案者の願いと柱を確認して考えをまとめられるよう援助する。 ・司会班との話合い（進行の方法について） ・個人の目標についても励ましの一言を書き込む。	・議題について自分なりの考えをもつことができたか。 ・互いの願いや、全体の利益を考えて役割分担ができたか。
本時	〈本時のねらい〉お互いの考えを大切にし、お楽しみ会を計画する。 1．始めの言葉 2．司会班の役割紹介 3．議題の確かめ 4．提案理由の説明と質問 5．話合い ①プログラムの内容を決めよう ②係を決めよう 6．決まったことの発表 7．今日の反省 8．先生の話 9．終わりの言葉	・学級活動ノートを用意する。 ・提案理由を理解する。 ◎学級活動ノートをもとに、自分の考えを言う。（挙手・指名・代理など） ・ドッジボール・クイズ・なぞなぞ ・ゲーム・ハンドベース・キックベース ・出し物・歌・合奏　など ◎プログラムの内容を考慮に入れ、学級活動ノートも参考にし、考えを言う。 ・司会・始めの言葉・プログラム作り ・飾り付け・会場作り・ゲーム係 ・終わりの言葉　など ・決まったことについて確認する。 ◎本時を振り返り、自分・友達のよかったところを評価し、発表する。 ◎友達のよかったところを賞賛する。 ◎気付かなかった友達のよさを知るとともに、新たな課題を持つ。	・黒板掲示用の紙を用意し、前もって自分の考えを記入できるようにする。 ◎同じ考えが出た場合、同じですと言ったり、黒板にネームカードを貼るなど、個の考えが表れるようにする。 ・教師の支援を適宜行う。 ＊話合いの方法や技術について相互援助を促す。 ＊話合いのルール違反をたしなめる。 ＊司会班へのアドバイス　など ◎時間が足りなくなったら、朝自習や帰りの会などの時間を利用して話し合うことを知らせ時間内に反省、評価ができるようにする。 ◎友達、自分のよさに気付くよう促す。 ◎児童の賞賛を補い、次回への課題をもつよう助言する。	・お楽しみ会を開くために自分の考えをもてたか。 ・友達の意見を聞き、それに応じて考えを発表したり、変えたり、まとめたりすることができたか。 ・活動を振り返り、自分や友達のよさに気付くことができたか。 ・次回への課題をもてたか。
事後	・係ごとに会の準備を進める。 ・個人やグループが出し物の練習や準備をする。 ・お楽しみ会を実施する。 ・反省	◎それぞれのアイデアを生かし、協力して準備する。 ◎役割を果たし、楽しく活動する。 ・反省をし、次回の活動に生かす。	・準備時間を確保する。 ・アイデアを実行に移せるよう、材料・道具などについてヒントを与える。 ・練習・準備の進度を確かめ、援助する。 ◎よかったところを見つけるよう助言する。	・お互いの考えを大切にしたり、協力したりして、お楽しみ会を実施することができたか。

(6) 考察

① 成果

・「みんなで楽しめるお楽しみ会をしよう」というだれもが意見をもてる議題であったので，児童は生き生きとした表情で話し合いに参加していた。

・事前に学級会ノートに自分の考えやめあてを書くことで，意欲的に話し合いができた。

・黒板掲示用の紙に自分の考えを前もって書くことにより，発言の少ない子，苦手な子も自分の考えを友達に知らせることができ，話し合いに全員が参加することができた。

・だれもが，司会班ができるように議事の進め方をマニュアル化したり，事前に教師と司会班の打ち合わせをしたりすることにより，スムーズに話し合いを進めることができた。

・司会班の児童は，教師との打ち合わせでリハーサルをした。そのことにより司会班の児童は，具体的に流れを把握することができ，見通しをもち安心して会に臨むことができた。また，板書計画もしっかりもてた。

・教師は議事進行にかかわること以外発言をしないことによって，児童自ら意見を調整し，解決の道を時間をかけて話し合うことができた。

・友達のよかったところを発表する場を設定することにより，よい意見や発展的な意見に気付くことができた。また，意見のよさのみならず司会班の頑張りも賞賛することができた。

② 課題

・話し合いの技術を身に付けさせることも必要ではないか。

・事前の準備が大変である。したがって，毎週同じ手順を踏み，話し合い活動をすることは難しい。準備の効率化を図る工夫が必要である。

5. 研究のまとめと今後の課題

(1) 研究の成果

① 共に学び合う場を設定する

② 場に応じて，子供同士が互いにかかわり合いをもてる手だてを講ずる

③ 個や集団に応じた教師の働きかけをする

以上3点を学習活動の中に設定したことにより，次のような姿が児童に見られた。

・課題を明確にもてるようになってきた。

・楽しく学習に取り組めるようになってきた。

・意欲的に学習するようになってきた。

・友達のよさを認められるようになってきた。

・表現力がついてきた。

(2) 今後の課題

・児童の発達段階に応じた支援をさらに追究していく。

・児童が主体の学習には時間がかかる。そこで，指導計画作成にあたり，児童が十分に活動できる時間を計画的に確保していく。

・個に応じた支援をより深く探るために，教師の専門性をさらに高めていく。

・受容的な学級の雰囲気作りを工夫追究していく。

V　第三分科会

一人一人のよさや可能性を引き出すための支援の工夫

1.　分科会研究主題設定の理由

これからの学校教育では，社会の変化に対応し，自ら考え主体的に判断し行動することや，国際社会の中で自己の役割を自覚し，その責任を果たしながら，未来に向かってたくましく生きていくことのできる力をもった児童の育成が強く求められている。このような教育を実現するためには，児童の内発的な学習意欲を喚起させ，自ら学ぶ意欲や，学び方，思考力・判断力・表現力などを重視する学力観に立って，教育を進める必要がある。

そこで，本分科会では，児童の「知りたい」「学びたい」と言う意欲や，児童それぞれがもっている個性や資質・能力を「児童一人一人のよさや可能性」ととらえ，よりよく伸びていこうとする児童を，どのように支援していくことが望ましいかについて探るため，上記の分科会テーマを設定した。

2.　研究のねらいと仮説

児童一人一人のよさや，可能性を引き出すためにはどのような支援が必要かを考え，以下の仮説を設定した。

研究の仮説

学習指導の工夫・改善と合わせて児童の実態に応じた支援を以下の3点から行うことで，児童一人一人のよさが表れ，主体的に学習に取り組み，個性豊かに，たくましく生きていける児童に育つものと考える。

○児童が興味関心をもち，主体的な学習を喚起する学習材の選択。
○互いに認め合い，心の通う学習の場の工夫。
○児童が自ら学習を振り返り，成就感の得られる評価活動の工夫。

研究の構想図

社会の要請
- 自己教育力の育成
- 心の教育の充実
- 基礎基本の重視と個性教育の推進
- 社会性を育む教育
- 国際理解教育の推進

共通研究主題

新しい学力観に基づく指導法の研究

都の教育課題
- 人権尊重の教育の推進
- 国際化・情報化に対応した教育の推進
- 生き方にかかわる教育の充実
- 生活指導の充実

指導上の問題
- 一人一人の児童理解を深める。
- 児童の主体性を重視した学習活動を工夫する。
- 互いのよさを認め合う学習の場を工夫する。
- 個を生かした指導法や評価を工夫する。

共通研究主題の分析

新しい学力観に基づく教育においては児童を肯定的に捉え、豊かに、たくましく生きていくために必要な資質や能力を身につけた児童を育てることが求められている。

そのためには、児童の主体性を重視し児童一人一人のよさや可能性を引き出す教師の適切な支援が必要である。

児童の実態
- 情報量が多い
- 好奇心が旺盛
- 順応性に富む
- 判断力、行動力が乏しい
- 人とのかかわりが不十分
- 耐性の不足

第三分科会研究主題

一人一人のよさや可能性を引き出すための支援の工夫

研究の仮説

学習過程の工夫、児童の実態に応じた支援を、以下の３点から行うことで、児童一人一人のよさが表れ、主体的に学習に取り組み、個性豊かに、たくましく生きていける児童に育つものと考える。

○児童が興味関心をもち、主体的な学習を喚起する学習材の選択。
○互いに認め合い、心の通う学習の場の工夫。
○児童が自ら学習を振り返り、成就感の得られる評価活動の工夫。

学習過程

	つかむ 課題把握	調べる・試す・表現する 課題追究	まとめる 課題達成
児童活動	○学習の“めあて”をもつ ○学習の計画をたてる	○自分なりの方法で解決する ○他の解決方法を知る ○友達のよいところを認め、励ます。	○学習成果を発表する ○学習を振り返る（自己評価） ○相互評価をする ○新たな課題をもつ
教師の支援	○知的好奇心に訴える問題提示の工夫 ○課題の確認の工夫 ○見通しをもつための工夫	○学習形態の工夫 ○学習環境の工夫 ○学習活動の工夫	○記録の整理 ○学習結果の発表、表現等の工夫 ○学習の反省、自己評価、相互評価の工夫 ○学習の発展応用

育てたい児童像

○自ら課題をもち、主体的に学習に取り組むことのできる児童。
○集団の中の個を自覚でき、互いの存在を認め合うことができる児童。
○自ら学習を振り返り、自分の学習活動を評価できる児童。
○様々な個性の中において、自分の在り方に自信のもてる児童。

3. 研究の内容

これまでの学習では，教師側に立った学習活動が展開されてきた。授業の進行とともに多くの児童は聞き役になり，教師主導の傾向がみられた。

このような反省から，下記のような点を重点に研究を進めてきた。

- 児童一人一人のよさや可能性を引き出すことを目指して，児童の学習状況に応じて主体的に活動できる学習の場と時間，材料や器具を用意するなど学習環境を工夫し整える。
- 児童の主体的な活動を促すために問題把握のための助言を与えたり問題解決のための視点を与えたりする学習の場を工夫する。
- 学習への努力や様子や態度，向上した点等のよさに着目し，励まし合ったり，児童の考えや表情に頷いたりするなど，児童の多様な関心・意欲・思考・判断等に共感する。これらの工夫によって，児童相互及び教師と児童がそれぞれのよさを発揮し，互いのよさや可能性を十分に引き出すことができる。また，その結果として新しい学力観に立つ学力を獲得することができると考えた。

4. 実践事例　（第6学年　算数）

(1) 単元名　　「拡大図と縮図」

(2) 単元の目標

- 図形の形や大きさについての理解をまとめ，拡大図・縮図の意味や性質について理解するとともに，相似な関係に関心をもつ。
- 拡大図や縮図をかく方法を理解する。
- 縮尺の意味を知り，縮図から実際の長さや面積が求められることを理解するとともに，身のまわりのことがらに進んで適用する。
- 直接測定することのできない川幅などを，直角三角計の縮図を利用して求められることを理解する。

(3) 研究主題との関連

算数科の学習指導では，算数への興味・関心・意欲を高め，数学的な考え方・判断力を培い，表現・処理の能力を伸ばすことが求められる。さらに，主体的な学習の仕方を身に付けるために，児童が自ら問題解決したり，問題を作ったりする学習活動の工夫が大切である。そのためには，児童一人一人の学習の状況を適切に評価し，状況に応じてそれぞれが意欲的に学習を展開できるように考えていく必要がある。また，それを支える基盤として，一人一人が自分なりの考え方を確実にもち，解決のための多様なアプローチをしていくことも重要になる。したがって，これからの学習活動は，学習意欲や考え方，判断力等を高め，一人一人のよさや可能性を引き出すための支援の工夫が必要になってくる。その具体的な方法を次のように考える。

① 学習材の選択

生活に身近なところ（校庭）から課題を設定し，学習への意欲を喚起する。三角形やヨット形による導入も考えられるが，四角形を取り上げることによって問題に対する適度な抵抗感がもてるようにし，多様な解決方法を引き出すことができるようにした。また，直感で判断できる要素があったり，問題に発展性があったり，いろいろな段階の児

童に対応することができるようにした。

② 場の工夫

それぞれが，自分なりの解決方法をもち，その考えをグループや全体の中で発表することにより，お互いのよさを認め，自分の考えを深めることができるようにする。

③ 評価活動の工夫

調べ，解決する課題追究の場では，一人一人が課題を的確にとらえ，自分の考えを生かして取り組めるような手がかりを与え，主体的に活動できるようにする。また，自分の学習を振り返る時間をもち，わかった点・わからない点を明確にするとともに，それぞれの考えを認め励ますことによって，達成感や自信をもち，次時への意欲へつなげる。

(4) 児童の実態

男女ともに活発で，学習に限らずいろいろな場面でよく活躍するようになっている。自分の意見を積極的に発表する児童も多く，どの教科でもよく発言する。しかし，友達の意見をよく聞いて理解し，さらに，自分の考えを深めたりすることは十分でない。また，発言に意欲的な子と，そうでない子の差が大きくなりつつある。

算数については，はっきりきらいという子が少なく，難しい問題にも意欲を示し，喜んで挑戦する。その反面，算数がきらいな子の中には，苦手意識をかなり強く持っている子もいる。また，計算には時間がかかり，分数や少数が入ってくると計算ミスが多くなるなど，技能的には問題をかかえている。

(5) 学習過程

小単元	学　習　活　動	学　習　の　ね　ら　い
1 拡大図と縮図 5時間	＊原図に対して拡大図・縮図になっているかを調べる。＜本時＞	＊対応する辺や角の大きさを比較し「同じ形」に着目する。
	＊拡大図・縮図の意味や性質をまとめる。 ＊拡大図・縮図の性質を用いて，単純な三角形や四角形をかく。	＊拡大図・縮図の意味を理解する。 ＊拡大図・縮図の書き方を理解する。
	＊方眼を利用したりして，複雑な図形の拡大図・縮図をかく。	＊対応する辺の比や角の大きさが等しい性質を利用してかき，理解を深める。
	＊三角形の決定条件を活用してかいたりもとの図の1点を中心にしてかいたりする。 ＊拡大図・縮図と原画の面積を比べる。 （2時間）	＊拡大図・縮図の書き方を工夫する。 ＊拡大図・縮図の面積の比較をする。
2 縮図の利用 2時間	＊縮尺の意味や表し方を知り，それを用いる。	＊縮尺の意味とその表し方を知り縮尺に関する計算の仕方を理解する。
	＊縮図をかいて，川幅や建物など直接測れないものの長さの求め方を考える。	＊縮図の意味とその表し方を知り縮尺に関する計算の仕方を理解する。
3 まとめ 2時間	＊「練習」をする。	＊学習内容の適用と習熟。
	＊「まとめ」をする。	＊学習成果の診断。

(6) 本自の指導（1／9）

① ねらい

＊「同じ形」を見つけるために，対応する辺の長さや角の大きさに着目できる。

＊自分なりの考えを持ち，深めることができる。

② 展開

＜①学習材の選択　②場の工夫　③評価活動の工夫＞

	学習活動	予想される児童の反応	教師の支援	
課題把握	＊校庭の航空写真を見て，どんな形か考えてみる。 ＊写真の校庭と実際の校庭では，何が同じで何が違うかをとらえる。 ＊いくつかの図形の中から，写真の校庭と同じ形のものをさがす。（視覚的，直観的にとらえる） ＊解決の見通しをもつ。	＊四角形，長方形，台形 ＊形は変わらない。大きさは違う。 ＊Ｂは似ている ＊Ｅは違う	◇一人一人の児童が，自ら問題に働きかけ，解決しやすい場面をつくるとともに，「同じ形」に着目できるようにする。 ◇予想を立て，自分の判断を確かめていく意欲をもつようにする。	①
課題追究	＊カードNo.1にある図形（四角形）の中から，校庭と同じ形の図形はどれか，見通しに基づいて，自分なりの方法で調べる。〔個人〕	＊既習経験を生かしながら，調べる。 〔a〕視覚的には判断できるが，解決の見通しが立たず，調べ方がわからない。→ 〔b〕辺の長さや角の大きさは調べているが，対応させることができない。→ 〔c〕対応する辺や角の関係を見つけ，解決している。→ 〔d〕切りとって重ねたり，写してみたりして取り組んでいる。→	◇自分なりにじっくり取り組むための時間を確保する。 ◇既習事項である三角形の合同をもとに，図形の構成要素（辺や角）に気付くようにする。 ◇原図・拡大されたもの・縮小されたものに長さや角度が記入されたカードNo.2を提示する。 ◇他の構成要素（対角線）に着目したり，同じ形の図形をかいたりして，他のきまりも考えてみるようにする。 ◇具体的操作による解決も認めて，次に発展できるような視点を与える。	③
	＊班の中でそれぞれの意見を発表し，意見交換をする。〔グループ〕	＊自分の解決方法を説明する。 ＊友達の考えを知る。	◇班の中で意見交換をすることにより，多くの児童に自分の考えを発表する場を与えると同時に，自分の学習状況をしっかりつかむ。また，友達の考えを聞き，よさを認めるようにする。 ◇どの子も発表できているか，多くの反応はでているか，友達の解き方と比べて似ている点やよさが見つけられているかなど，机間指導をする。	②
	＊自分の考え，解決方法を再検討する。〔個人〕	＊友達の考えを参考にして，自分の考えをよりよいものに修正する。	◇学習を振り返り，「形が同じ」とはどういうことか，自分の考えを必要に応じて修正させ，一人一人の解決法をよりよいものにつなげていく。	
課題達成	＊自分の解決のもとになる考え方をおさえて発表する。	＊重ねてみた。 ＊拡大図のみ見つけられた。 ＊縮図のみ見つけられた。 ＊対応する辺や角をとらえて，同じ形を見つけた。 ＊三角形の決定条件から考えた。	◇それぞれが，多様なアプローチで解決したいろいろな意見を発表し認める。 ◇足りない部分は補足する。	③
	＊「同じ形」とはどういうことかノートにまとめる。 ＊「同じ形」の図形を見つけるには，対応する辺の長さの比や角の大きさに着目すればよいことを知る。	＊大きさは違うが，角の大きさが等しい。 ＊辺と角が等しい。 ＊辺の長さの比や角の大きさが等しい。	◇学習を振り返り，自分の言葉で考えてみるようにする。 ◇カードやノートから児童の思考過程を読みとる。	

(7) 評価

＊「同じ形」を見つけるために，対応する辺の長さや角の大きさに着目できたか。

＊自分なりの考えを持ち，深めることができたか。

(8) 考察

・ 身近なところから学習材を見つけることは大切で，これからもこのような工夫が要求される。自分のものとして学習ができるように，さらに気持ちを揺さぶるような工夫が必要である。

・ 辺の比を利用したり，対角線に着目したりして，多様な考えで取り組むことができた。しかし，第1時としては課題がやや難しかったので，数値をもっと単純化したり，比較対象を1つにしぼったりして，学習過程の導入部分としての役割をさらに明確にできるとよかった。

・ 個の学習時間は十分にもてた。班の中で意見交換ができる，個→グループ→個という場の設定もよかったが，算数学習のよさにつなげるためには，個がもっと確実に考えをもつ必要がある。

・ それぞれの児童が「同じ形」をどうとらえているか。「四角形だから同じ」などと判断する児童もいるし，視覚的判断に自信をもっている児童もいる。グループ学習時のもっと細かい支援の用意とともに，できるだけ多様な児童の反応を予想しておきたい。

5. 研究のまとめと今後の課題

(1) 研究の成果

本分科会では，「児童一人一人のよさや可能性を引き出す」ための「支援の工夫」として，3つの仮説をたてて研究を進めてきた。その結果，次のような成果をあげることができた。

① 学習材の選択

身近なところから課題を設定したり，個に応じた課題を選択することによって，児童が興味・関心をもって意欲的に学習に取り組むことができた。

② 場の設定

個々の児童一人一人が考え，活動する時間や場を十分に確保するとともに，グループと個の活動の場，全体での学習を1単位時間の中で組み合わせることによって，自分の考えを発表したり，お互いの考えを聞き合ったりして個々の考えを深めることができた。

③ 評価活動の工夫

学習を進めていく中で，個々の児童が自分の学習を振り返り，グループや全体の場での活動の在り方を考える。また，教師の支援を適切にすることによって，児童が自分の活動を自分で評価したり，お互いのよさを認めあったりすることができた。

(2) 今後の課題

① 全体指導計画を見通したうえでの本時の位置付けを考え，学習材の選択や評価活動の工夫など，効果的な支援の在り方を考える必要がある。

② グループ活動の時，教師がどのような支援を行っていけば，児童が互いのよさを認め合い，学習を深めていけるのか，もっと具体的な手だてを考えていく必要がある。

③ 児童一人一人の学習活動の全体を通して見られる興味や関心，考え方，活動状況に関して，広い視野から把握し，多面的で的確な評価を工夫する必要がある。

Ⅵ　研究のまとめと今後の課題

1.　研究のまとめ

共通研究主題「新しい学力観に基づく指導方の研究」に迫るために，本年度は三つの分科会を構成して研究に取り組んだ。

第一分科会　・一人一人のよさを認め合う学習過程の工夫

第二分科会　・児童が共に学び合うための支援の工夫

第三分科会　・一人一人のよさや可能性を引き出すための支援の工夫

本研究では，各分科会が研究の構想図を作成し，研究のねらい，仮説，方法を明確にすることに努めた。

研究の成果　その結果，研究のまとめとして，次の点が明らかになった。

(1)　学習活動を教師がどのように支援するかという観点に立ち，指導目標を「関心・意欲・態度」「思考・判断」「技能・表現」「知識・理解」の４つの観点に位置付けるように設定することで，児童の側に立った学習が展開され，児童一人一人のよさや可能性を高めることができた。

(2)　学習の課題把握・課題追究・課題達成の過程ごとに，児童の活動に対する支援を具体的にすることによって，児童の思いや願いを生かした学習活動の展開を考えることができた。

(3)　身近なところから課題を設定したり，個に応じた課題を選択したりすることによって，児童が興味・関心をもって意欲的に学習に取り組むことができた。

(4)　児童が互いにかかわり合いをもって学び合える場を設定し，場や集団に応じた支援をすることによって，課題が明確になり学習意欲が高められた。また，友達のよさも認められるようになり，楽しく学習に取り組むようになってきた。

(5)　教師の支援を適切にかつ，具体的に行うことによって，児童が自分の学習を振り返って，自分で評価したり互いのよさを認め合ったりすることができた。

2.　今後の課題

研究の結果，次の点が課題として残り，今後さらに研究を深めたいと考えている。

(1)　新しい学力観に立つ指導を通して，児童の関心・意欲・態度や学ぶ力としての表現力が育ってきている。したがって，これらを確実に評価することやその結果を児童にフィードバックする方法を検討していく必要がある。

(2)　系統的な学習（主に知識・理解）についての学力が以前よりも劣ってきているという指摘がある。教科の特性や発達段階に対応できる学習過程や支援の研究をさらに深めていくとともに，基礎・基本を確実に身につけさせる指導について学習過程に明確に位置付けていく。

(3)　認め合い，学び合う場としての学級の受容的な雰囲気作りをさらに工夫する。